令和６年度切り花ぎく病害虫防除基準

発　行：ＪＡさがえ西村山
さがえ西村山花き振興協会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

[害虫防除]

作業	対象害虫									RACコード	薬剤名	使用方法				注意事項
	センチュウ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ミカンキイロアザミウマ	ハモグリバエ類	ハダニ類	ナミハダニ	オオタバコガ	コナジラミ類			倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期	使用回数	
定植前	○									8F	バスアミド微粒剤(劇)		20～30kg 0.3ℓ／㎡	は種又は植付前	1回	土壌混和。ハガレセンチュウを除く。
親株管理		○	○					○		1B	ジェイエース水溶剤	1,000倍（10ｇ）	3.3㎡当たり1ℓ	発生初期	5回以内	マメハモグリバエにも登録がある。
		○	○							1B	ジェイエース粒剤		6～9kg	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。
生育期		○	○							4A	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	2,000倍（5ｇ）	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
								○		6	アファーム乳剤	1,000倍（10mℓ）	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
			○									2,000倍（5mℓ）				
			○		○					4A	ダントツ水溶剤	2,000倍（5ｇ）	200～300ℓ	発生初期	4回以内	散布。カメムシ類にも登録がある。
		○	○									4,000倍(2.5ｇ)	1ℓ／㎡			生育期株元灌注。ナモグリバエにも登録がある。
				○						4A	モスピラン粒剤		3～6kg	定植時	1回	植溝土壌混和する。
					○								1ｇ／株			植穴土壌混和する。
			○											生育初期		株元散布。
		○											0.5～1ｇ／株			
		○		○		○				3A	アーデント水和剤	1,000倍（10ｇ）	200～300ℓ	発生初期	5回以内	魚毒性が強いので注意する。
				○					○	4A	ベストガード水溶剤	1,000倍（10ｇ）	200～300ℓ	発生初期	4回以内	
				○		○		○		13	コテツフロアブル(劇)	2,000倍（5mℓ）	200～300ℓ	発生初期	2回以内	アワダチソウグンバイ、ヨトウムシ類にも登録がある。
				○	○					4A	アクタラ顆粒水溶剤	1,000倍（10ｇ）	200～300ℓ	発生初期	6回以内	※ハモグリバエ類には2,000倍で散布する。
			○	○						1A	オンコル粒剤5		6kg	生育期	3回以内	株元散布。※ミカンキイロアザミウマは9kg／10a
		○								29	ウララ50DF	5,000倍（2ｇ）	200～300ℓ	発生初期	6回以内	
		○	○							4A	アドマイヤーフロアブル(劇)	2,000倍（5mℓ）	100～200ℓ	発生初期	5回以内	施設栽培で登録があるが、露地栽培では登録がないので注意する。
		○							○	4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍（5ｇ）	200～300ℓ	発生初期	5回以内	カメムシ類にも登録がある。
					○							1,000倍（10ｇ）	1L／㎡			灌注。
		○	○		○					21A,39	ハチハチ乳剤(劇)	1,000倍（10mℓ）	200～300ℓ	発生初期	4回以内	白さび病にも登録がある。
		○	○							1B	ジェイエース粒剤		9kg、1～2ｇ／株	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。
				○						15	カスケード乳剤	2,000倍（5mℓ）	200～300ℓ	発生初期	3回以内	マメハモグリバエにも登録がある。
			○			○		○		30	グレーシア乳剤	2,000倍（5mℓ）	200～300ℓ	発生初期	2回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。
						○				20B	カネマイトフロアブル	1,500倍(6.6mℓ)	200～300ℓ	―	1回	[ハダニ類] 1. 発生初期に防除を徹底する。 2. 乾燥が続く時期は特に発生しやすいため、注意する。 3. 同一薬剤の連用はさける。
						○				25A	スターマイトフロアブル	2,000倍（5mℓ）	200～300ℓ	発生初期	1回	
						○				6	コロマイト水和剤	2,000倍（5ｇ）	200～300ℓ	発生初期	2回以内	
			○			○				6	アグリメック(劇)	500倍（20mℓ）	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
							○			20D	マイトコーネフロアブル	1,000倍（10mℓ）	200～300ℓ	開花前まで	1回	
							○			1B	ガードホープ液剤(劇)	3,000倍(3.3mℓ)	2ℓ／㎡	生育期	2回以内	土壌灌注。ネグサレセンチュウ、ハガレセンチュウに登録がある。
			○		○			○		5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍（2ｇ）	200～300ℓ	発生初期	2回以内	
								○		28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍（5ｇ）	200～300ℓ	発生初期	4回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。
								○		UN	プレオフロアブル	1,000倍（10mℓ）	200～300ℓ	発生初期	4回以内	
			○					○		28	ヨーバルフロアブル	2,500倍（4mℓ）	100～300ℓ	発生初期	3回以内	
								○		30	ブロフレアSC	2,000倍（5mℓ）	100～300ℓ	発生初期	3回以内	

[病害防除]

作業	対象病害								RACコード	薬剤名	使用方法				注意事項
	白さび病	黒斑病	褐斑病	立枯病	うどんこ病	灰色かび病	白絹病	斑点病			倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期	使用回数	
定植前				○			○		8F	バスアミド微粒剤(劇)		20～30kg	は種又は植付前	1回	土壌混和。３年連続して伏せ込む場合は必ず土壌消毒を行う。
親株管理						○			M3	ジマンダイセン水和剤	600倍(16.6ｇ)	0.3ℓ／㎡	―	8回以内	炭疽病、べと病にも登録がある。
	○								M2	コロナフロアブル	800倍(12.5mℓ)	0.3ℓ／㎡	―	―	
	○								39	ピリカット乳剤	1,000倍（10mℓ）	0.2～0.3ℓ／㎡	発病初期	6回以内	アブラムシ類にも登録がある。
					○						2,000倍（5mℓ）	0.2～0.3ℓ／㎡	発病初期	6回以内	
さし芽時	○								7	バシタック水和剤75	1,000倍（10ｇ）	200～300ℓ	発病初期	5回以内	
生育期	○	○	○		○			○	M5	ダコニール1000	1,000倍（10mℓ）	200～300ℓ	―	6回以内	密植多肥栽培をさける。
			○						1	トップジンM水和剤	2,000倍（5ｇ）	200～300ℓ	―	5回以内	菌核病1,500倍
	○								11	アミスター20フロアブル	2,000倍（5mℓ）	200～300ℓ	発病初期	5回以内	6月上、中旬、梅雨期間中に防除を徹底する。
	○				○	○			7	アフェットフロアブル	2,000倍（5mℓ）	200～300ℓ	発病初期	3回以内	
	○								3	ラリー乳剤	3,000倍(3.3mℓ)	200～300ℓ	発病初期	5回以内	EBI剤は耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。
	○				○					アンビルフロアブル	1,000倍（10mℓ）			7回以内	
									31	スターナ水和剤	1,000倍（10ｇ）	200～300ℓ	―	5回以内	斑点細菌病に登録がある。発病初期防除を徹底する。

作業	対象病害	対策
親株管理	きくえそ病	1.発病株は抜き取り、適切に処分する。 2.発病株からさし穂を取らない。 3.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 4.発病株に触れた手で健全株に触れない。
生育期	きくえそ病（トマト黄化えそウイルス）	1.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 2.被害株は早期に抜き取る。 3.発病株に触れた手で健全株に触れない。
採花後	ウイルス	アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類等の防除を徹底する。
	ウイロイド	わい化したもの（疑わしいもの）は抜き取り、親株には使用しない。

1．白さび病防除のポイント　～親床から一貫した防除が必要～
　① 冬至芽をハウスに伏せこむ時は、出来るだけ展葉していない芽を使う。
　② 展葉したものを使う場合は、下葉は出来るだけ取り除き、白さび病に侵されていないものを使う。
2．ハウス防除では、薬害が発生しやすいので、散布濃度、散布時期等に留意する。

除草剤使用基準

	薬剤名	RAC	10ａ当り薬量／散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草		特性
							一年生雑草	一年生イネ科雑草	
処理剤土壌	トレファノサイド乳剤	3	200～300mℓ／100ℓ	定植後	畦間土壌散布	1回	○		露地栽培のみ使用できる。 ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。
	アグロマックス水和剤	3	200～400g／100ℓ	定植後（雑草発生前）	全面土壌散布	1回	○		・キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る。
	ゴーゴーサン乳剤	3	200～400mℓ／70～150ℓ	定植前（雑草発生前）	全面土壌散布	1回	○		・キク科雑草とツユクサには効果が劣る。
処理剤茎葉	ナブ乳剤	1	150～200mℓ／100～150ℓ	雑草生育期（イネ科雑草３～５葉期）	雑草茎葉散布	３回以内		○	・イネ科作物には薬害があるので注意する。 ・遅効性で枯死するまでに７～10日必要。 ・広葉雑草及びスズメノカタビラやカヤツリグサに効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500mℓ／100～150ℓ	雑草生育期（草丈20cm以下）	雑草茎葉散布	３回以内	○		畦間処理。作物に飛散しないように注意する。

◆系統別適用農薬一覧表　★系統の異なる農薬を輪用で使用する。

	分類	IRAC	殺虫剤	殺ダニ剤
殺虫・殺ダニ剤	カーバメート系	1A	◎オンコル	
	有機リン系	1B	ジェイエース・カルホス・ガードホープ	
	ピレスロイド系	3A	◎アーデント	
	ネオニコチノイド系	4A	アドマイヤー・◎アクタラ・ダントツ ◎ベストガード・モスピラン・スタークル	
	スピノシン系	5	スピノエース	
	マクロライド系	6	アファーム・アグリメック	コロマイト・アグリメック
	ピロール系	13	◎コテツ	
	ベンンゾイル尿素系	15	カスケード	
	シロマジン	17		
	アセキノシル	20B		カネマイト
	ケトニトリル誘導体	25A		スターマイト
	ジアミド系	28	フェニックス・ヨーバル	
	メタジアミド系	30	グレーシア・ブロフレア	
	フロニカミド	29	ウララ	
	U N	UN	プレオ	

注意　◎印はミカンキイロアザミウマに効果のある農薬です。

	分類	FRAC	予防効果のみ	予防・治療効果
殺菌剤	MBC	1		トップジンＭ
	DMI	3		ラリー・アンビル
	SDHI	7	バシタック・アフェット	
	QOI	11		アミスター
	硫黄	M2	コロナ	
	ジチオカーバメート	M3	ジマンダイセン	
	クロロニトリル	M5	ダコニール	

■合成ピレスロイド剤は蚕、魚類に対する毒性が強いので、桑園、養魚池、河川の近くでは使用しない。モスピラン顆粒水溶剤、アクタラ顆粒水溶剤、アドマイヤーフロアブル、コテツフロアブル、アファーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤、カスケード乳剤は、蚕に対する毒性が特に強いので桑園の近くでは使用しない。